

interview



山北棒踊り先遣り 宗円大介さん(34歳)

人との繋がりを大切にしていきたい

棒踊りの青年たちをまとめる先遣りの宗円大介さんにお話をうかがいました。

先輩から後輩へ

棒踊りの青年は、現在24人で、年齢層は21歳から35歳です。山北の青年だけで構成されています。

昔は、浅上王子宮が天照大神女の神様であることから、独身の青年だけに踊ることが許されていましたが、地域に残る青年が年々少なくなり、今は既婚者も踊っています。新人が入ると、古い者から順次、入れ替わっていく仕組みで、先輩から上下関係の厳しさや、棒踊りへの誇り、地域との繋がりを教えられます。お酒の席になると、先輩か

ら「何のために棒踊りをしていくのか」「なぜ棒踊りがここまで続いてきたのか」をよく聞かれましたし、年長者となった自分も気がつけば、先輩に教わったことを後輩たちに話しています。

子どもたちへ

地域の子どもたちが打つ子供棒の指導に青年たちが当たっています。子どもたちには、大人になっても棒踊りをやりたいという気持ちをもってほしいです。子供棒を習うことで、山北に残り伝統と歴史ある棒踊りを守ってほしいと願っています。

地域の人たちに支えられて

いままで一度も途切れたことのない浅上王子宮での奉納は、自分たちにとっても地元にとっても特別です。

山北の棒踊りの原点である宮で、毎年地元の皆さんの前で奉納できる喜びは格別で、地域の人たちに支えられていることを実感します。

約300年前から伝えられてきた踊りが、今も変わりなく伝えられていることに誇りを持つと共に、今ある環境を作ってくれた先人の方々に感謝しています。



▲昭和56年の棒踊り(本棒)

山北地区全体が「若いし」を後押し

棒踊りの青年たちを支え見守る保存会会長の徳久俊祥さんにお話をうかがいました。

山北棒踊り保存会は、青年組織と地唄会、浅上王子宮の宮総代とで組織されています。宮を中心として地域をまとめ伝統芸能を守り継承していかねければなりません。

山北の男性なら一度は経験する棒踊り。山北の青年たちは、そんな慣わしがある地域を背負って本当に良くやっていると自負しています。秋祭りの1カ月前から毎晩練習に励み、棒踊りだけでなく、地域のためにさまざまな



山北棒踊り保存会会長 徳久俊祥さん(49歳)

後世に絶えることなく 伝授されることを強く願っています

活動をしています。

半数以上が消防団に入り地域の安全と安心に貢献し、また、懸崖菊で新たな名所となった城山公園の作業を手伝うなど、地域活動に積極的に関わっています。地元の人からの信頼も厚く「棒の若いし」と親しまれ、老若男女問わず信頼関係が築かれています。

そんな青年たちの行動は、地域のエネルギーとなり地域力の源になっています。



▲浅上王子宮

参考図書

- 土佐の芸能 高知県の民俗芸能 土佐の祭り
- 山北の棒踊り 初版
- 山北の棒踊り 改版
- 香我美町史(上・下)



香南市の11月の秋祭り

11月1日	立山神社	野市町土居
11月1日	海津見神社	夜須町夜須川
11月1日	住吉神社	吉川町吉原
11月1日	西徳善八幡宮	吉川町吉原
11月3日	須留田神社	赤岡町
11月3日	岑本神社	香我美町岸本
11月3日	兔田八幡宮	野市町兔田
11月7日	大谷神社	野市町大谷
11月8日	若一王子宮	香我美町徳王子
11月8日	上夜須八王子宮	夜須町上夜須
11月10日	飛鳥神社	香我美町岸本
11月15日	夜須八幡宮	夜須町西山
11月18日	浅上王子宮	香我美町山北



素朴にして清浄  
凛々しく格調高い  
山北の棒踊りは  
子どもたちの憧れ

地域のお祭りには、伝統を守るため懸命に努力している人の姿や、守る活動を通じた地域の人たちの助け合いが垣間見えます。棒踊りを継承している立山神社や上夜須八王子宮などは深刻な後継者不足を抱えています。そして、まちの伝統文化を保存し継承していくために、さまざまな課題を模索しながら苦勞している人たちがいます。山北地区では、伝統を受け継ぐ若者たちが、子どもの頃から生活とお宮とのかかわりを感じながら育ち、棒踊りを通じて絆や誇りが芽生えることで、地域に対する愛着心が培われてきました。伝統を受け継ぐことでもあるのです。